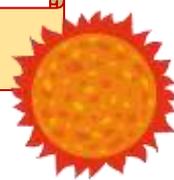


暑熱ストレス対策してますか？



【はじめに】

日本の夏は年々気温が上昇しており、畜産業における暑熱の影響も増加しています。夏季の暑熱ストレスは、牛に呼吸数・血流量の増加によるエネルギー要求量の増加、飼料採食量の減少、泌乳量の減少、繁殖成績の低下などを引き起こします。

夏を元気に乗り切るために以下に注意して管理を行いましょう！



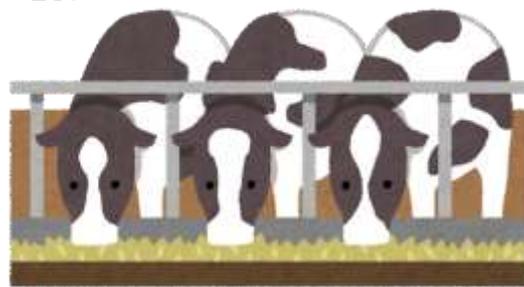
【気温上昇が牛に及ぼす影響】

（１）生理的变化

- ・暑熱ストレスにさらされると体温調節機構が破綻し体温が上昇
- ・体温上昇を抑えるために、呼吸数・心拍数が増加することでエネルギー要求量が増え、増体や泌乳に悪影響
- ・熱産生を抑えるために飼料摂取量や反すう回数が減少、ルーメンアシドーシスになりやすくなる
- ・子牛や育成牛では発育不良や疾病の増加（免疫の低下）

（２）受胎率の低下

- ・飼料摂取量減少による栄養（エネルギー）不足が泌乳量・受胎率の低下を招く
 - ・性ホルモンの分泌低下やバランスの乱れなどの卵巣機能に悪影響、分娩後子宮回復の遅れ
- 発情行動が不明瞭となり発情の見逃し、発情周期の乱れ
卵子や胚の品質低下による不受胎



【暑熱対策】

（１）飲水・栄養面

- ・新鮮で十分な飲水の確保（秋～春の3倍程度）
- ・夜間～朝方の涼しい時間に良質な粗飼料を十分に給与（変敗飼料は与えない）
- ・給与回数と餌寄せの回数を増やす（牛の採食意欲を刺激する）

（２）環境面

- ・牛の周囲の環境温湿度を下げ、牛が体から熱を放散させやすい（体温上昇を招かない）環境を整えましょう。
- 扇風機などで牛舎内の水分を除去（湿度を下げ体熱を効率よく放散させる）
→ 屋根への白色塗装や散水（天井からの放射熱を減らす）
→ 採食量が増加する夜間の環境温湿度も積極的に下げる



毎月1日は、「消毒・点検の日」

～病気の侵入を防ぐためには、
地域全体の取組が効果的です！～



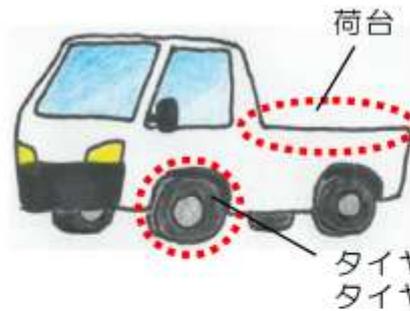
定期的に、一斉消毒を行うとともに、日頃の消毒方法や実施状況を確認して、
家畜の伝染病の侵入を防ぎましょう。

消毒を徹底しましょう！



いつもの消毒の方法は適切ですか？

- 入場車両の消毒は？
- 消毒前の洗浄（汚れの徹底除去）は？
- 消毒液の時期、回数、濃度は？



「やっかつもり」をなくしましょう！

- 長靴の裏に、汚れはついていませんか？
- 踏込消毒槽が汚れた水槽になっていませんか？
- いつ、だれが消毒したか記録はありますか？



お互いに、作業内容を確認して、「やっかつもり」をなくしましょう！

岩手県中央家畜保健衛生所
岩手県県南家畜保健衛生所
岩手県県北家畜保健衛生所

Tel:019-688-4111
Tel:0197-23-3531
Tel:0195-49-3006